

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-01

学校名・団体名	中学校板書型指導案編集プロジェクト
HPアドレス	なし
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	板書とデジタル教科書を有効に活用した中学校 社会科の授業
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <ul style="list-style-type: none">①動態地誌的な構成から、生徒に地理的な見方・考え方を高める授業の構築（深める活動）②デジタル教科書の効果的な活用と板書構成を組み合わせることで、生徒同士が自力で課題解決を行う授業展開の研究（深める活動）③生徒のノート指導をどのようにすると、生徒の思考力・判断力・表現力を鍛えることができるか（深める活動）④若手の教師や地理学習の指導が不得手な教師でもわかりやすく授業ができ、生徒も楽しく学習できる授業づくりを行う（広める活動）	

(1) 編集プロジェクト会議

平成27年6月11日(木)、25日(木)、7月16日(木)、23日(木)に開催された。
 この中で、今回の授業を

- ①中学校社会科地理、日本地理とし、その範囲を「中部地方、関東地方、北海道地方」とする
- ②各単元を「動態地誌」で構成し、1時間ごとの展開例と板書構成を作成する
- ③デジタル教科書を使用し、タブレットを活用するなどICTの活用と、生徒の反応を黒板に書き込みながら、話し合い活動を重視する授業構成を研究する
- ④実際に授業をし、検討会を設け、さらに改善すると位置づけた。そのなかで、生徒はどのようにノート指導すると思考・判断・表現力を鍛えることができるのか、生徒がデジタル教科書を使用した場合、そのようなメリット、デメリットがあるかの研究をする方向を確認した。

(2) 授業研究

札幌市立常盤中学校の横井知佳教諭を中心に授業研究が行われた。

社会科(地理的分野) 日時 平成27年11月20日(金) 場所 札幌市立常盤中学校
 単元名 日本の諸地域 日本の中央部 「関東地方 他地域との結びつきを中心とした考察」
 本時の目標 東京への通勤・通学圏拡大の理由について、交通網の発達と関連付けて考え、表現できる。都心部の混雑や地価の高騰に関心を持ち、東京大都市圏が拡大した理由と問題点を捉えることができる。



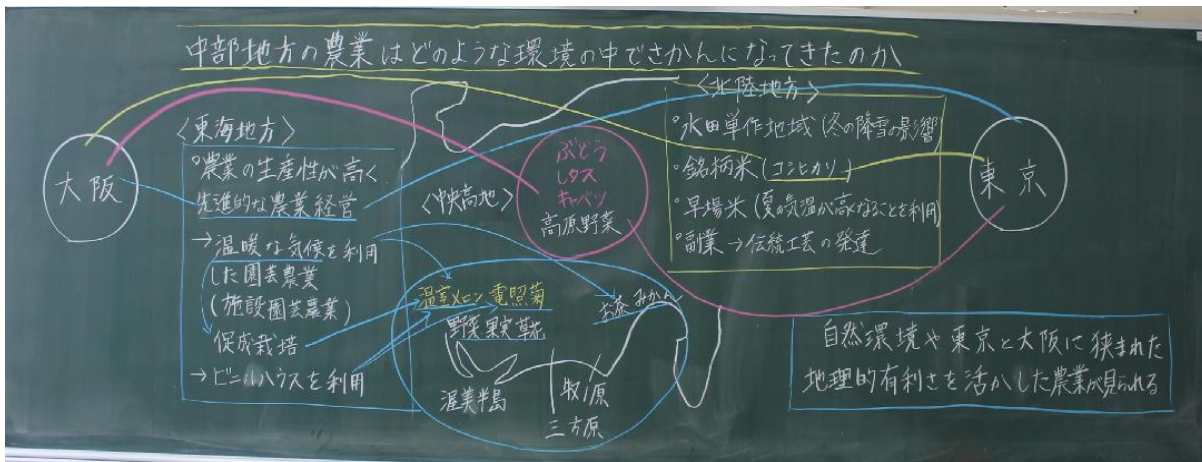
- 成果
- ①指導案を組む段階から板書計画を盛り込み、板書を中心に授業を構成することで、生徒の反応を予想しながら指導案を検討でき、実際の授業でも生徒の反応予想がスムーズにできた。
 - ②生徒に意見を板書するだけでなく、その関係を色や線で表すことで、意見の関連性や違いを明きらかにでき、その後の学級討議での生徒の思考が高まった。

- 課題
- ①タブレットから教師が大型テレビを使用して生徒に提示したが、生徒用のタブレットがあればもっとスムーズに生徒に提示できたのではないかな。
 - ②グループでの発表を紙に書いて発表させたが、生徒用のタブレットがあれば、共有化できて理解力も高まったのではないかな。

(3) 板書型指導案製作

札幌市立新琴似中学校、札幌市立常盤中学校において、計7回板書型指導案の製作を行った。





(4) 成果と課題

成果 ① デジタルの良さ (デジタル教科書)

教師用のデジタル教科書は、タブレットを活用して大型テレビに出力して提示できることは、生徒の集中力を高めたり理解度を高める手段としては、大変有効的であった。

教師も事前に必要な写真を取り込んでおくことでストレスなく提示できるのも魅力的である。

② アナログの良さ (板書構成と授業の関係)

板書は生徒の発言の一つ一つをつなぎ合わせて、話し合いの方向をしめし課題解決を行う重要な役割を果たしていた。個で考える場合、教科書と資料集やプリントを見るだけでなく、黒板を見ていた生徒が多くいた。それは、今までの授業の進行を確認するだけでなく、その繋がりを確認し、そこからヒントを得て、思考していたのである。

③ デジタルとアナログの組み合わせ (ICTと板書)

板書構成を事前に検討することで、話し合いの質を高めることになり、ICTを活用することで、わかりやすい授業ができる。しかも、どのタイミングで図を見せるかも検討できるので、無駄なく効率的に授業ができる。特にICTを活用にストレスのない若い教師ほど、有効であった。

課題 生徒用のデジタル教科書の必要性

現在のデジタル教科書は、教師用と生徒用が同じものであり、本の教科書と同じ構成となっているが、教師用は良いが、生徒用は生徒間と生徒教師間で情報が共有できるものがほしい。生徒の書き込みがそのまま大型テレビに映し出すことができれば、話し合い活動がしやすくなるのではないかと考える。

生徒用を揃えるには多額の資金は必要になり、学校単独で添えるには限界がある。北海道教育大学附属函館中学校では、全校生徒にタブレットを配布し、自宅にも持ち帰るしくみをとっている。反転学習が行いやすくなる。調べ学習も自分の机上で出来る利点もある。